

英語 3 文字略語につまづく

大津 隆文

最近新聞を読んでいると英語の 3 文字略語につまづくことがしばしばある。例えば SDG とか LRT。どうにか覚えたが、前者は Sustainable Development Goals の略で、似たような略語に ESG(Environmental, Social, Governance) というのもあってややこしい。

後者は Light Rail Transit の略で日本語に訳すと軽量軌道交通らしい。これなど原語でなくうまい日本語の略語はないだろうかと思きたくなる。

振り返ってみると明治の初期、海外の文物を取り入れた際、先人達は原語を本当に巧みに漢字語に転換したものだと思う。哲学、化学、権利、恋愛、倶楽部など当時の翻訳語には頭が下がる。

英語のような表音文字と違って表意文字である漢字は単語自体から意味が推測出来るので、外来語はなるべく漢字語にしてもらえるとありがたい。

新聞紙面でも単語によっては SNS（交流サイト）、PBR（株価純資産倍率）のように、カッコ書きで原語または日本語を併記している場合もあり助かる。他方 GNP や ATM のようにすっかり馴染んだ言葉もあるので、問題は浸透・定着具合なのかもしれない。

もっとも日本の言葉でも、NHK とか NTT とかの略称もあるから、英語 3 文字略語には使い易さという大きな利点があるのだろう。さらに全日空、日教組といった漢字 3 文字略語もある。

こうした略語が増えてきたのは国際電信、コンピューターの普及に伴い入力簡略化の必要性が高まっているからだとの説がある。日常のビジネスシーンではフレーズをより短く表現する傾向が顕著で、ATM, BBL, FYI 等の略語が頻繁に使われており、これらは at the moment, be back later, for your information だという。

とすれば英語 3 文字略語の隆盛は国際化、IT 化の流れの一環であって、これを嘆くのは高齢者の愚痴であり、記憶、習得の努力をすべきと自戒しよう。